

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	
応募概要	応募区分	特別エリア区分			
	複数応募の有無	無	応募総企画数		
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※				

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	いっぽんしやだんほうじん しげやまきょうげんかい		
	制作団体名	一般社団法人 茂山狂言会		
	代表者職・氏名	代表理事 茂山 正邦		団体ウェブサイトURL https://kyotokyogen.com
	制作団体所在地	〒 602-0849	最寄駅(バス停)	河原町今出川
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	しげやませんごろうけ		
	公演団体名	茂山千五郎家		
	代表者職・氏名	14代当主 茂山 正邦		団体ウェブサイトURL https://kyotokyogen.com
	公演団体所在地	〒 602-0849	最寄駅(バス停)	河原町今出川
	制作団体 設立年月	1967年1月1日(2015年10月2日法人格取得)		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等		
	代表理事 茂山 正邦	茂山眞吾、茂山晃、茂山正邦、茂山宗彦、茂山茂、茂山逸平、茂山童司 茂山千五郎家で主たる役者を勤める者		
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名		茂山茂、中嶋香織
経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者		茂山茂、鈴木実
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号	
	info@kyotokyogen.com		0752218371	

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>【一般社団法人 茂山狂言会】</p> <p>昭和42年に「茂山狂言会」として発足、それより毎年春秋に自主公演『茂山狂言会』を開催 平成6年 四世茂山千作・十三世茂山千五郎襲名公演を東京、京都、大阪、名古屋にて主催 平成27年10月2日 法人格を取得「一般社団法人 茂山狂言会」となる。 平成28年 五世茂山千作・十四世茂山千五郎襲名公演を東京、京都、大阪、名古屋にて主催</p>
	学校等における公演実績	<p>茂山千五郎家は戦後間もない昭和25年頃から、関西・西日本を中心に学校公演を行ってまいりました。最盛期には年間300校以上で公演を行ってまいりました。近年は少子化や学校予算の減少に伴い、他の引受も含め年間100校程度となっております。</p> <p>また、平成10年頃からは、京都という土地柄から修学旅行での公演も積極的に展開してまいりました。京都の能楽堂で鑑賞していただくこともありますが、旅館の大広間で手軽に、低予算で鑑賞していただく機会を提供しております。</p> <p>戦後、どこよりも早く学校公演を始め、すでに70年以上の実績があります。その間、時代に合わせて演目や演出を変えながら楽しんでいただき、現在の校長先生から「小学校の時に茂山家の狂言を観て面白かったのを覚えています」というお声を頂戴したりもします。その間に獲得してまいりましたノウハウは、どこにも負けない自負がございます。</p> <p>(茂山千五郎家の直近の公演実績・全て令和7年度)</p> <p>6月11日守口市立八雲小学校、京都先端科学大学附属高校、6月20日灘中学鑑賞会、7月7日京都教育大学附属桃山中学校、7月8日奈良市立若草中学校、9月18日守山市立守山南中学校、9月24日雲雀丘学園小学校、9月25日大阪市立此花中学校、9月30日同志社香里中学校鑑賞会、10月29日京都府立鴨沂高等学校鑑賞会、10月30日大阪市立加美南中学校11月7日鹿児島市立谷山中学校、11月20日高槻中学校 など(実施予定を含む)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>京都の聾学校、盲学校での公演実績がございます。</p> <p>(近年の実績)</p> <p>平成22年10月8日 京都府立盲学校鑑賞会 平成27年11月11日 京都府立聾学校鑑賞会 平成30年9月27日 京都府立盲学校鑑賞会</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	PW:

別添

なし

【公演団体名】

茂山千五郎家

】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○													
		小学生(高学年)	○	中学生	○													
	企画名	京都・茂山千五郎家の狂言鑑賞会「The 学校狂言」																
	企画のねらい	<p>「古典」や「伝統」という言葉には「難しい」「堅苦しい」というイメージがあります。その様な中、現存する最古の舞台芸能でありながら、喜劇である「狂言」に触れることでそのイメージを壊し、日本の文化全般に興味を持ってもらうことを第一に考えています。</p> <p>また、第一線で活躍する能楽師狂言方の舞台を生で観ていただくことで、映像などでは決して伝わらない迫力を感じもらいます。その上で「蝸牛」では舞台の上と一緒にカタツムリの謡を謡って、舞台と観客の一体感を創出し、大人になっても記憶に残る大きな体験をしていただきます。</p>																
	演目概要・演目選択理由	<p>【仏師（ぶっし）】 「すっぱ」と呼ばれる、ちょっと悪い人が出てきて、都へ上ってきた田舎者を騙す狂言の代表作。物語のクライマックスですっぱが結ぶ仏像の印相は、役者のアドリブ要素があり、一期一会の舞台になります。</p> <p>【附子（ぶす）】 現在、小学6年の一冊の教科書に「柿山伏」が載っていますが、その前は、長らくこの演目が教科書に載っていました。一休小僧のトンチ話にもなっているお話は、いつの時代でも笑いが起ります。</p> <p>【蝸牛（かぎゅう）】 「蝸牛＝カタツムリ」誰でも知っているカタツムリを知らない太郎冠者は、藪で見付けた山伏をカタツムリと思い込みます。カタツムリの歌まで歌って、大はしゃぎで連れて帰ろうとするところに、主人が迎えにきて・・・。この演目の終盤に謡われるカタツムリの謡を指導し、舞台の役者と一緒に謡っていただき、会場を盛り上げたいと思います。</p>																
	児童・生徒の参加または体験の形態	ワークショップと本公演の中で、カタツムリの謡のお稽古をしていただきます。リズミカルで簡単な歌詞の謡は直ぐに覚えていただけます。それを、「蝸牛」の終盤で舞台の役者と一緒に謡っていただきます。																
	児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人數目安	300人程度まで													
				鑑賞人數目安	300人程度まで													
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>古典狂言「仏師」「附子」「蝸牛」</p> <p>【プログラム構成】</p> <table> <tbody> <tr><td>1・挨拶・演目解説</td><td>約10分</td></tr> <tr><td>2・「仏師」</td><td>約20分</td></tr> <tr><td>3・「附子」</td><td>約20分</td></tr> <tr><td>～休憩～</td><td>約5分</td></tr> <tr><td>4・演目解説・謡の復習</td><td>約10分</td></tr> <tr><td>5・「蝸牛」</td><td>約20分</td></tr> <tr><td>6・質疑応答・終わりの挨拶</td><td>約5分</td></tr> </tbody> </table>				1・挨拶・演目解説	約10分	2・「仏師」	約20分	3・「附子」	約20分	～休憩～	約5分	4・演目解説・謡の復習	約10分	5・「蝸牛」	約20分	6・質疑応答・終わりの挨拶
1・挨拶・演目解説	約10分																	
2・「仏師」	約20分																	
3・「附子」	約20分																	
～休憩～	約5分																	
4・演目解説・謡の復習	約10分																	
5・「蝸牛」	約20分																	
6・質疑応答・終わりの挨拶	約5分																	
公演時間	約90	分																
出演者	<p>【能楽大蔵流狂言方 茂山千五郎家一門】</p> <p>※茂山千五郎（茂山正邦）、※茂山宗彦、※茂山茂、※茂山逸平、茂山千之丞（茂山童司）、茂山竜正、茂山虎真 ※丸石やすし（丸石康）、※松本薰、島田洋海、増田浩紀、井口竜也、鈴木実、山下守之、田賀屋夙生（島田夙生） ※印は重要無形文化財総合指定保持者。（）は本名</p> <p>上記よりワークショップ・本公演共に5名で実施（ワークショップが別日の場合は3名） なお、スケジュールによっては（公社）能楽協会所属の能楽大蔵流狂言方に参加いただくこともあります。</p>																	
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	<p>【茂山千五郎（本名・茂山正邦）】 祖父四世茂山千作、父五世茂山千作に師事。4歳にて初舞台。その後、三番三、釣狐、花子、狸腹鼓など難曲を披く。現在は茂山千五郎家14代当主として活躍。平成17年度文化庁芸術祭新人賞受賞。平成20年度京都府文化賞奨励賞受賞。平成29年日本能楽会会員（重要無形文化財保持者総合認定）となる。令和6年度京都府文化賞功労賞受賞。</p> <p>【茂山宗彦】 祖父四世茂山千作、父二世茂山七五三に師事。4歳にて初舞台。その後、三番三、釣狐、花子など難曲を披く。平成25年度京都府文化賞奨励賞受賞。平成29年日本能楽会会員（重要無形文化財保持者総合認定）となる。</p> <p>【茂山茂】 祖父四世茂山千作、父五世茂山千作に師事。4歳にて初舞台。その後、三番三、釣狐、花子など難曲を披く。平成23年度京都府文化賞奨励賞受賞。平成29年日本能楽会会員（重要無形文化財保持者総合認定）となる。</p>																	
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人 数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合 計: 6 名	運搬	積載量: 1Boxタイプ t 車 長: 約4.5 m 台 数: 1 台															

本公司 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度		
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去			
	約1時間前	約45分	本公司演90分	各5分	20分	終演30分後		
	※本公司演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公司 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月	8月		9月		
	10日		10日	10日		10日		
	10月		11月	12月		1月		
	10日		10日	10日		10日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	80日			
本公司 ワークショップの内容 公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)	体育館のステージをそのまま使用します。 必要最小面積 幅8m×奥行き6m(これ以下でも対応は可能です)							
								
※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡 易図面」を記載し	またには鑑観入数が少ないので子供では1本体育館の床面を使用し、間近に舞台の迫力を感じていただきます。 (床面使用時の図面はワークショップ同じ)							
								
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当なし	該当コンテンツ名			
	該当事項がある 場合	権利者名		許諾確認状況				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名】

茂山千五郎家

】

ワークショップの
ねらい

先ず「柿山伏」を観ていただき、狂言が面白い“笑いの芸能”であることを知ってもらいます。また、教科書に載っている実施校では、活字で読んだものが実際の舞台ではどの様に表現されるのかも観ていただきます。
 社会の室町時代の文化で出てくる「能」と「狂言」。その歴史や違いを知ってもらうことにより、他の伝統芸能へも興味をもってもらえると考えます。そして、先生にも知識を得ていただくことで、来年以降の授業に役立ててもらえることも想定して内容を作っております。
 後半の体験の部分では、ただ単に体験するだけでなく「なぜそうするようになったのか?」までを知っていただくことにより、本公演での鑑賞がより深いものになるように考えております。また、そこで得た経験や知識は学習発表会など、ほかの学校行事でも活かされることと思います。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人數目安

1~200人程度まで

ワークショップ
実施形態及び内容

約90分（休憩含む）

【プログラム内容】

1部 “狂言を知ろう！”

- 1・挨拶・柿山伏の解説（約10分）
挨拶と「柿山伏」の解説をします。
- 2・「柿山伏」の上演（約15分）
一部の国語科教科書に載っている「柿山伏」を最初に見ていただきます。
- 3・能と狂言の歴史と関係（約15分）
スクリーン・プロジェクターを使用して、能と狂言の共通の歴史、その関係性と違いなどをお話しします。

～休憩～（約5分）

2部 “狂言をやろう！”

- 4・狂言の基本動作 構えと歩き方（約10分）
狂言の基本“腰を入れた姿勢”と“すり足”を、なぜそうするかという理由を説明し体験していただきます。
- 5・狂言の大袈裟な表現 笑い方と泣き方（約10分）
狂言の表現特徴である“大袈裟な表現”を、笑い方・泣き方で体験していただきます。
- 6・狂言の“つもりの芸” 柿を食べる（約5分）
何も無い素舞台に色々なものを想像しながら演技をする“つもりの芸”を、柿山伏にもある柿を食べる仕草で体験していただきます。
- 7・狂言のセリフの言い方 二字上がり（約5分）
文節の2音目にアクセントを付ける、狂言独特のセリフの言い方“二字上がり”を柿山伏の台詞で体験していただきます。
これは音読の指導にも役立つと思います。
- 8・カタツムリの謡の指導（約10分）
本公演で一緒に謡っていただくカタツムリの謡の指導をします。
- 9・終わりの挨拶（約5分）

【指導体制】

主指導者 1名

補助者 4名（柿山伏の上演と、後半の体験の補助、本公演とワークショップが別日場合は2名）



その他ワークショップに
に関する特記事項等



※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名】

茂山千五郎家

】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

(必須)

公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。

会場の設置階の制限 条件なし 主幹引き込み電源容量 普通電源 A以上

舞台設置面積	間口	8 m	奥行	6 m
	高さ	2.5 m		
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可
搬入間口の広さ	幅	1.5 m	高さ	2 m
遮光の要否	不要	縦帳の要否		不要
ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
		ピアノを使用しない場合の移動の要否		要
搬入車両(トラック等)の横づけ	横づけ要件なし	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		m以内
搬入車両の種類	普通車	台数	1 台	
搬入車両の大きさ	車幅 1.6~1.9 m	車長 4~5.5 m		
備考	舞台のサイズは希望で、確保できなくても対応可能です。追加の照明などは無いため普通電源があれば実施可能。ワンボックスタイプ一台で搬入します。			

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

(任意)

学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。

会場図面の提出要否	不要
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	

(任意)

万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。

なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。

※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。

時間外対応

	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ				
	ワークショップ				
	本公演				
	本公演				

個別確認事項

(任意)

上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。

個別ヒアリング事項

1 体育館ステージ下手袖に着替えのスペースを3畳ほど確保可能か？（可能であれば下手袖全面）

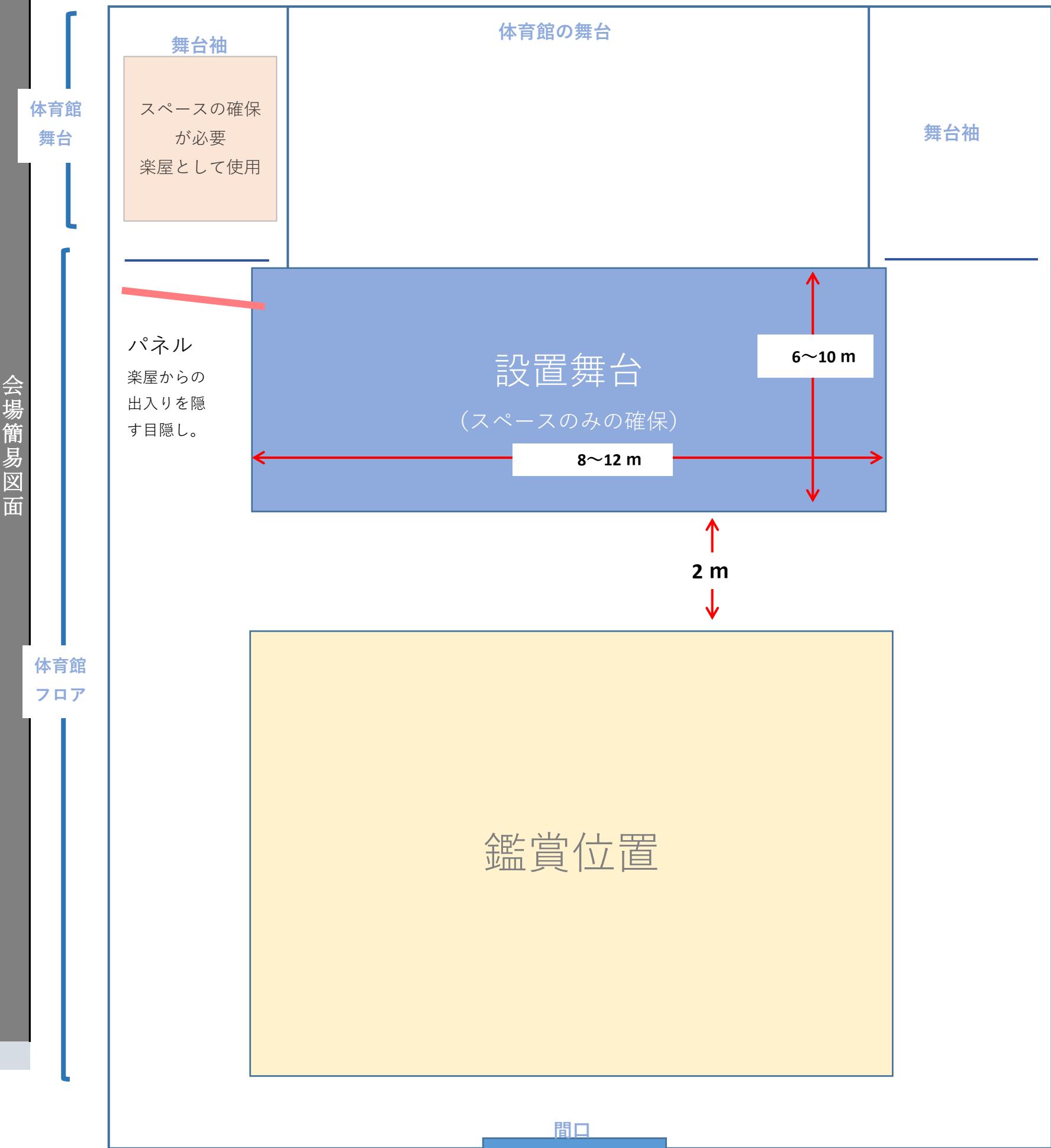
2 体育館ステージを使用の場合、ピアノを上手袖に移動が可能か？

3

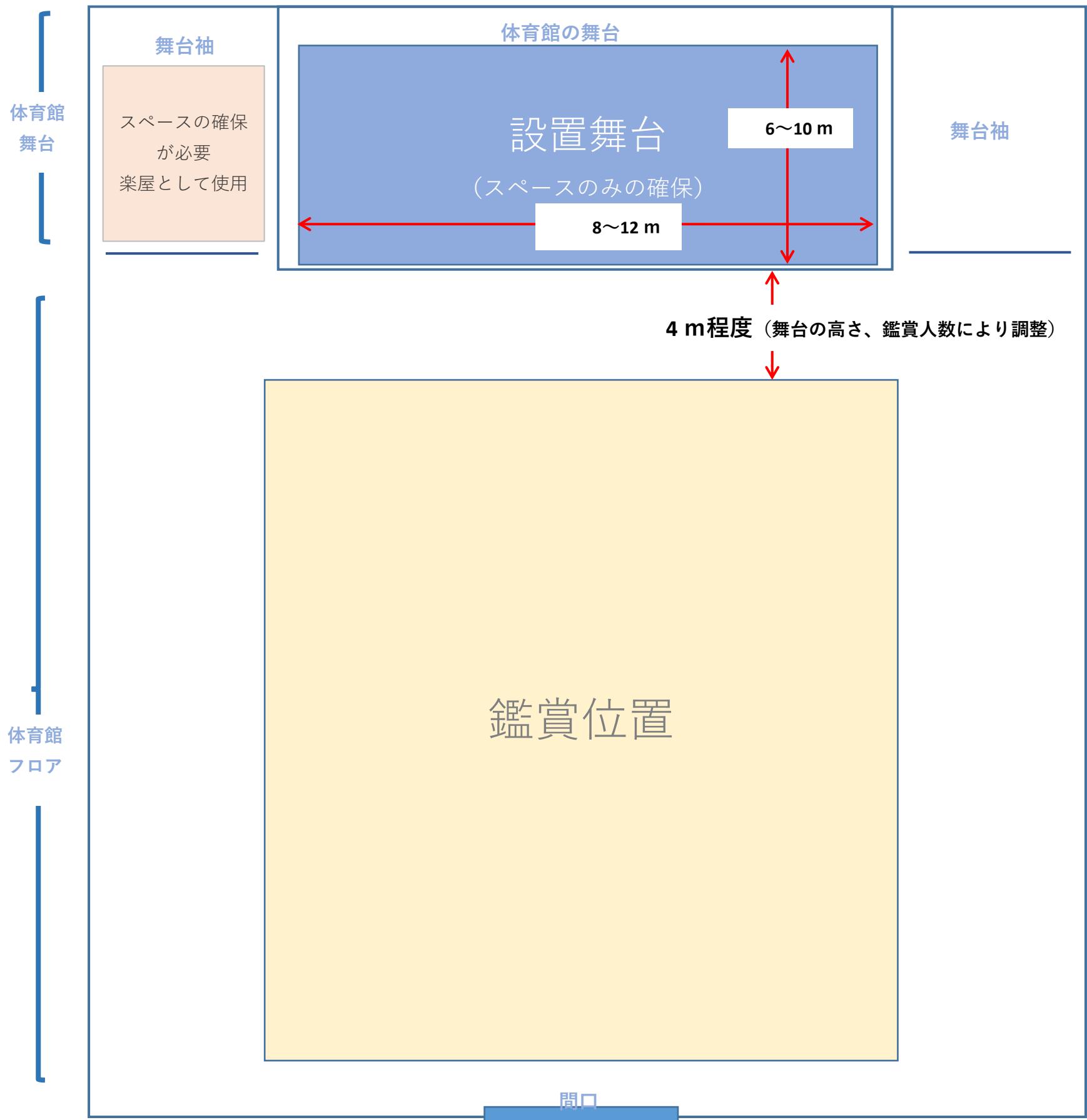
(任意) 会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

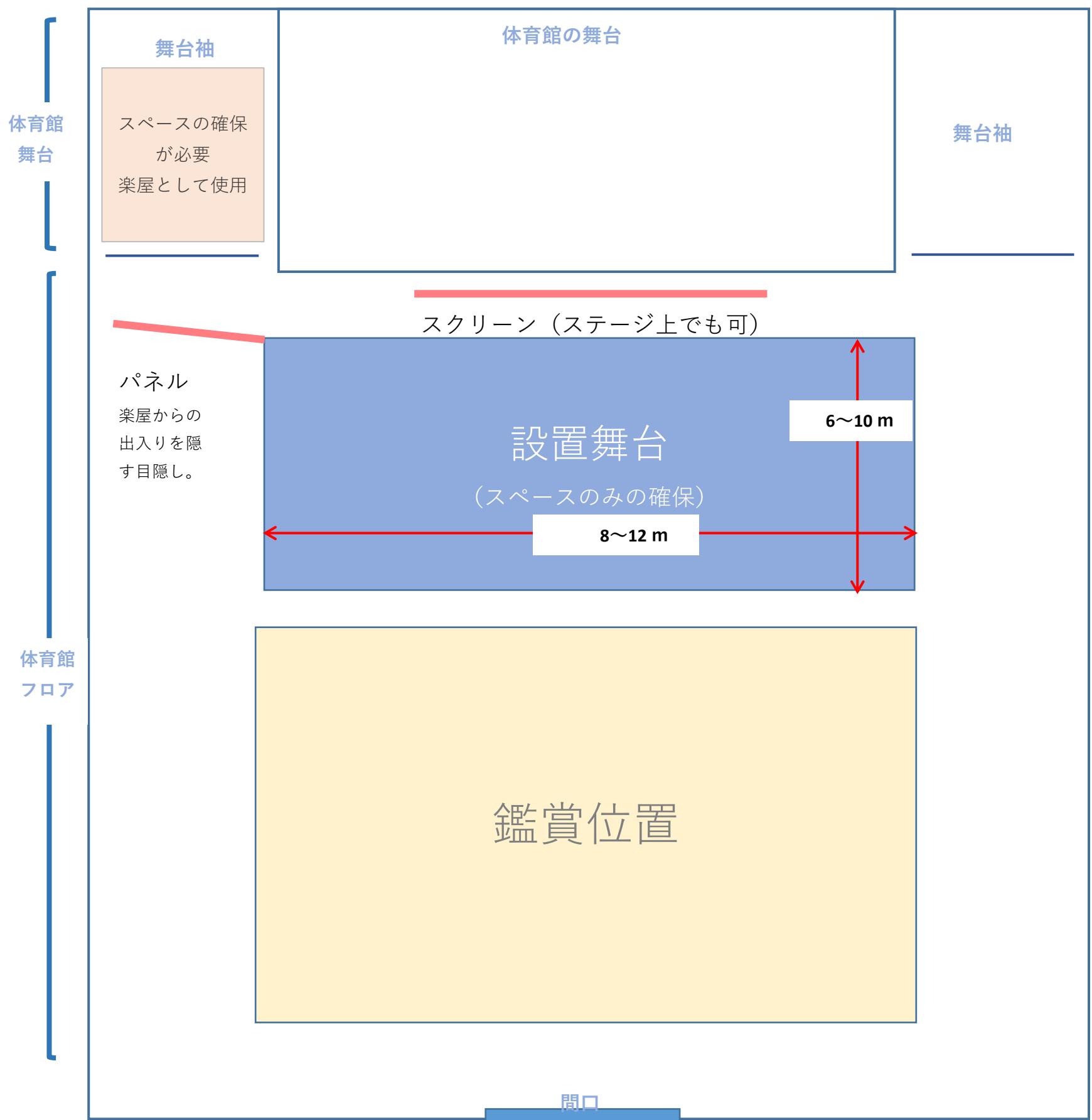
本公演 フロア使用時



本公演 舞台使用時



ワークショップ時



別添

なし

【公演団体名】

茂山千五郎家

】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

茂山千五郎家の学校公演ではとにかく「狂言は面白い」を伝えます。古典芸能への先入観は「難しい」「観ても分からぬ」と思います。まずはそれを打破すること。その時は興味が湧かなくとも、大人になって日本文化に意識が向いた時に「そういえば狂言って小学生の時でも分かったし面白かったな」と、思い出してもらえるくらい強い印象が残るようにと考えています。また、ワークショップでは生徒・児童に理解してもらうだけでなく、先生にも積極的に参加していただきたいと考えております。そして、来年以降の国語科の「柿山伏」や社会科の「室町文化」の授業に役立てていただき、私達が直接伝えられない、生徒・児童へも狂言の魅力が伝わればとも思っております。

本事業への応募理由等

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

狂言の面白さを伝えるために、セリフも古典のままではなく、必要なところは小学生でも分かる言葉に直しております。時にはアドリブなどを入れて、より身近に楽しんでいただけるようにします。ワークショップでもプロジェクターを使用し、言葉では伝わりにくい内容や、印象に残りにくいものも、分かりやすく伝わるように工夫をいたします。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

当法人は常設の事務所はありませんが有限会社 茂山狂言会と連携し、常に実施校との連絡を円滑に取れるようにしております。事前に実施校に意向を十分確認し、必要があればリモートで打ち合わせをするなど、できる限りの対応をいたします。また、実施に際し体育館をそのまま使います。実施校の事前準備も最低限必要なものになるようにしております。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

ワークショップではプロジェクターなどを用いて、聞くだけでなく視覚からも理解が深まる工夫をしております。狂言の上演に際しても、対象の児童・生徒の学年に合わせて、台本の内容を分かりやすく修正し、時にはアドリブも入れます。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

茂山千五郎家ではYouTubeチャンネルを持っており、定期的に配信をしております。また、ホームページでも公演情報や演目解説など充実した運営をこころがけております。狂言に興味を持った児童・生徒がオンラインや生の舞台情報に触れられるように準備しております。

別添

なし

【公演団体名】

茂山千五郎家

】

特別 エリア 区分 で 事 業 を 実 施 す る に 当 た つ て の 工 夫	①離島・へき地等における公演実績	これまで多くの地域でのアウトリーチ事業に協力・参加してまいりました。
		平成20年度 上越地方アウトリーチ 4公演
		平成21年度 上越地方アウトリーチ 4公演／糸魚川アウトリーチ 2公演
		平成23年度 多摩地区アウトリーチ 3公演
		平成25年度 滋賀県栗東アウトリーチ 4公演
		平成26年度 大分県アウトリーチ 1公演／滋賀県栗東アウトリーチ 4公演
		平成27年度 上越地方アウトリーチ 4公演
		平成28年度 上越地方アウトリーチ 4公演
		平成29年度 上越地方アウトリーチ 4公演
		平成30年度 滋賀県高島アウトリーチ 2公演／多治見地方アウトリーチ 3公演
		令和元年度 滋賀県高島アウトリーチ 5公演／多治見地方アウトリーチ 3公演
		令和2年度 滋賀県高島アウトリーチ 2公演
		令和3年度 三重県名張アウトリーチ 1公演
		令和4年度 宮崎県アウトリーチ 1公演
		令和6年度 京都府福知山アウトリーチ 1公演
特別 エリア 区分 で 事 業 を 実 施 す る に 当 た つ て の 工 夫	②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つための工夫	【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】 元々大道具などを使わない狂言の特性を活かして、必要最小限度パッケージで巡回できるように工夫をしています。また、体育館での実施が無理な場合、児童・生徒の人数によっては多目的室などでも柔軟に実施いたします。
		【質を保つための工夫】 能舞台が成立する以前の猿楽では、板を敷き詰めだけの舞台であったり、時には芝生の上で演じてきた歴史もあります。そうしたことからも特別な舞台装置を持ち込まなくとも、狂言の魅力を十分に伝えられると考えており、その環境でのノウハウも持ち合わせております。例えば、舞台の範囲を限定する装置が無いのを逆手にとり、自由に空間を使った演出を取り入れたりしています。
		この企画はワークショップと本公演を同日に行うことを想定しております。（ワークショップと本公演が別日でも可能） することにより基本的な経費も削減できますし、離島や僻地への移動時間にかかる拘束などの負担も軽減できると考えております。 本公演は解説など含め10役ありますが、効率よく役を回すことで5人で実施いたします。 上にも記しました通り、舞台機構・装置を持ち込みませんので、車一台（1Boxタイプ）で、役者・装束の移動・運搬を可能としています。 ワークショップ・本公演ともに実施校現地での準備を役者が行いますので、舞台スタッフを帯同させません（事務スタッフ1名は帯同）。舞台スタッフの帯同がなくても円滑に実施できるように、事前に実施校と必要事項の確認を行います。